

SAC 会議(2009 年 11 月)出席報告

(社)日本証券アナリスト協会
理事・教育第二企画部長
金子 誠一

11 月 12 日、13 日の両日、ロンドンにおいて開催された国際会計基準委員会財団(IASCF)の基準諮問会議(SAC)*の概要について下記のとおり報告します。

*国際会計基準審議会(IASB)に対し、検討事項やその優先順位をアドバイスするための組織。委員は 45 名強。日本からは証券アナリスト協会代表の報告者(金子)に加え、経団連代表の米家正三伊藤忠商事常勤監査役が委員。他に金融庁から 1 名がオブザーバー(発言権あり)で参加。SAC 会議は年に 3 回、ロンドンで開催される。今回は、金融庁からは園田周企業開示課課長補佐が出席。

記

1. 要旨

今回の会議における大きなテーマは(1)2011 年後の議事日程、(2)定款見直し、の 2 点。

(1)2011 年後の議事日程

IASB は FASB (米国財務会計基準審議会)との覚書 (MOU) に基づき、2011 年 6 月までに多くの基準を開発することを明確にしているが、その後のスケジュールは白紙である。この背景としては、①米国が 2011 年に IFRS の採否を決める予定であること、②2012-13 年頃に IFRS に移行予定の国が多くあること(移行直後に多くの変更をさせるのは好ましくない)、③2011 年にトゥイーディー議長をはじめ、数名のベテラン理事が退任期を迎えること、が挙げられる。SAC の意見は、2011 年後はそれまでに開発した基準の導入動向のフォローを中心とし、新たな基準開発は当面控えるべきだというのが主力だった。

(2)定款見直し

IASCF は 5 年に一度、定款を見直すこととしている。今回の見直し作業は 2 段階で行われており、昨年終了した第 1 段階では、モニタリング・ボード*の設立等が決められた。現在、検討中の第 2 段階では緊急時におけるデュープロセス(関係者への意見聴取期間)短縮が大きなテーマ。SAC 委員の間では短縮に反対する意見が多かった。

2. 議事一覧

番号	日時	議事
(1)	12日 8:00-9:50	金融商品(教育セッション)
(2)	同 10:20-10:40	開会・議長挨拶
(3)	同 10:40-11:50	最近4ヶ月の動向
(4)	同 11:50-12:45	SAC委員の活動動向
(5)	同 12:45-13:10	米国FASACの動向
(6)	同 14:10-16:30	2011年後の議事日程
(7)	同 16:30-17:45	ディスクロージャー
(8)	13日 8:00-9:00	投資家委員との朝食会合(非公開)
(9)	同 9:30-10:30	2011年後の議事日程(続き)
(10)	同 10:55-12:10	定款の見直し
(11)	同 13:00-14:45	運営問題(非公開)
(12)	同 14:50-15:45	年金会計(教育セッション)

*会議資料は下記から入手できる。

<http://www.iasb.org/Meetings/SAC+Meeting+November+2009.htm>

*会議の録音は下記で公開されている(非公開部分と教育セッションは除く)。

<http://www.iasb.org/The+organisation/Advisory+bodies/The+SAC/SAC+meetings/Meeting+audio+playback/SAC+Meeting+audio+playback.htm>

3. 議事概要

上記の番号に従い、報告者の発言を中心に、日本からの参加者の発言要旨にも触れながら議事概要を紹介する。

(1) 金融商品(教育セッション)

SACメンバーの知識向上のための「教育セッション」。参加は任意で説明者はIASBスタッフ。IASB理事は出席しない。

当セッションのテーマは、金融商品の測定と分類および減損。測定と分類については、従来モデルを単純化したとして一般的に好評との話があった。

減損は従来の実現損失モデルを予想損失モデルに変更する案の解説。実現損失モデルでは、損失の引き金となるイベントが無いと損失を認識できないため、損失認識のタイミングが遅れ、認識額も低めになるとの批判が生じていた。予想損失モデルでは過去の実績等に基づき最初の受け取り金利から一部は引当金に回されることになる。「結局、市場価格で評価するのと同じではないか」との質問に対し、スタッフは「市場価格が無い場合にも対応しており、また市場価格には含まれる流動性プレミアム等は含まれないのが違い」と回答していた。

(2) 開会・議長挨拶

議長・副議長より挨拶、および前回(6月)会議以降の活動について総括。

(3) 最近4ヶ月の動向

トゥイーディー議長およびIASBスタッフから前回国際会議以降のIASBの活動を中心に報告。トゥイーディー議長は2011年までのMOU項目に挙げられた基準開発に自信を示し、FASBとの関係についても、FASBがMOUのアップデート版にサインし、また今後毎月、共同会議を開催することにしたことを傍証に挙げて、順調であることを強調した。

米家委員から次のコメントおよび質問があった：現状の純利益は会社業績の指標として有用であると考えている。包括利益も有用であるにしても、それは純利益と共にあってこそである。新しい会計基準において、OCIで評価する幾つかの項目がリサイクルされないことになっているが、これによって純利益の情報価値が低下すると懸念している。この問題を包括的に解決する計画はあるのか。

この質問にはIASBスタッフから次の回答があった：1表の包括利益計算書を提案予定だが、その中で純利益とOCIの関係がはっきり分かるように工夫したい。包括的な解決の検討については前回のSAC会議でも意見が分かっていた。いま、取り組むと既存のプロジェクトが大きく遅れてしまう。

トゥイーディー議長からは次の追加説明があった：例えば、償却原価法で評価する金融資産を売却した場合、損益は純利益に含まれるが、独立した科目で示す。これが市場規律を保つ一助になろう。

(4) SAC委員の活動状況

SAC委員から所属地域や組織内の特記事項について説明。概ねポジティブな意見が多かった。IASBは中小企業向けの簡略化した基準(IFRSs for Small and Medium-sized Entities)を公表したが、アフリカの委員から更に小さな企業向けのSuper SME基準が必要だとの意見もあった。

米家委員から次の発言があった：日本はIFRSのアドプションに舵を切り、いまや連結財務諸表へのIFRSの任意適用が認められることとなった。既に、日本では関連諸団体によるIFRS対応会議を発足させ、また経団連や企業会計基準委員会では早期導入を計画する企業等を中心に実務的な対応を進めるなど、各方面が一致協力した体制でIFRS導入の準備を加速させている。

(5) 米国FASACの動向

FASB版のSACであるFASACのChookaszian議長からの説明。FASACはメンバー35名。年に4回会議を行っているとのこと。

(6) 2011 年後の議事日程

IASB は 2011 年までは詳細な基準開発予定を持つが、その後は未定になっている(この背景等については上記 1.(1)参照)。IASCF の定款上 SAC の目的は「議事日程について IASB にアドバイス」することになっており、当議題が今回会議のメインイベント。

会議事務局から事前に送付された資料では下記の 4 点が 2011 年後の議事日程の戦略的オプションとして挙げられていた。

- (a)いくつかの大きなプロジェクトを集中して取り上げる
- (b)現存基準の「修繕と保持」を宗とする
- (c)IAS を IFRS にシステマティックに置き換える
- (d)開発は一休みして IFRS 導入後の評価をする

また、同資料では上記(a)の大プロジェクトの例としては下記 5 点が挙げられていた。

- (a)天然資源採取産業・・・オーストラリア等資源国の会計基準設定者がドラフト討議資料を起草済み
- (b)ディスクロージャーのフレームワーク・・・FASB が検討を開始している
- (c)外貨換算・・・IAS21 号の改訂
- (d)非金融資産の減損・・・FASB と共同プロジェクトを開始したが中断
- (e)無形資産・・・07 年末に検討中断を決定、オーストラリアの会計基準設定者が「自己創設無形資産の初期認識」という討議資料を作成済み

会議前に協会の企業会計研究会メンバーにアンケート調査を行い、上記戦略および大プロジェクトの重要度を評価してもらった。アンケートにあたっては、大プロジェクト候補に下記を追加した。

- (f)純利益の表示・・・財務諸表の表示プロジェクトでは棚上げ状態

アンケート結果は英訳し、会議場で配布した(8-9 頁の参考資料参照)。

当セッションでは、委員のバックグラウンド別に 4 グループに分かれて議論が行われ、報告者はユーザー・グループ(投資家および証券取引所監督者)に加わった。戦略的オプションについて、当グループのコンセンサスは「(d)開発は一休みして IFRS 導入後の評価をする」であった。また、政治的独立性を担保するためにも、概念フレームワークやディスクロージャー・フレームワークを整備し、議事日程の決定にもアンケート調査も活用するなど透明性を確保する必要があると言う意見が目立った。大プロジェクト候補については、時間が無くあまり議論できなかった。

議論の過程で次の発言をした：当協会のアンケート結果を見ると、戦略オプションでは a), b), e) の支持が多い。矛盾しているようだが、「疲れたから一休みしたいが、本当に重要な少数の案件には取り組む」と解釈すれば整合性は取れている。個別プロジェクトでは、f) 純利益の支持が多かった。純利益、OCI、リサイクリングについてはきっちりと議論をして結論を出すべきだと思う。

(7) ディスクロージャー

FASB は今年の 8 月に「ディスクロージャー・フレームワーク」をプロジェクトに加えた。現行の注記等による開示には、ユーザーは「内容を伴わない表面的な情報が多い」という不満を持ち、作成者は「重複情報が多く作業負担が重い」という不満を持っている。FASB のプロジェクトは開示問題の指針となる概念的なフレームワークを作ろうというもの。IASB も同様のプロジェクトを採用すべきかどうか議論したが、肯定的な意見が多かった。なお、この問題に関しては米国のユーザーグループが FASB に、オーストラリアの作成者グループが IASB に意見書を提出済み。SAC 委員が起草に関っており、それぞれから説明があった*。

報告者は次のコメントをした：当協会のアンケート調査(参考資料)でも、ディスクロージャー問題を取り上げるべきと言う意見が多く、現行開示制度に関する問題意識は日本のアナリストも共有している。ただし、フレームワーク作りにはリスクもある。作成者は我々が必要な情報は隠し、我々が関心のない情報を顕示しようとする傾向がある。フレームワークが情報隠しの言い訳に使われてはならない。SAC 委員が起草した開示フレームワークモデルもあるので、十分勉強し、日本からも建設的な提言ができるように努めたい。

* ITAC(Investors Technical Advisory Committee、FASB の諮問機関)および、Group of 100(オーストラリアの作成者団体)。それぞれ、下記から入手できる。

http://www.fasb.org/cs/ContentServer?c=Document_C&pagename=FASB%2FDocument_C%2FDocumentPage&cid=1175801635556
<http://www.group100.com.au/> (掲載予定)

(8) 投資家委員との朝食会合

投資家代表委員と IASCF(Nicholson トラスティ、Sidwell トラスティ)、IASB(トゥイーディー議長ら)との意見交換会。当日のフィナンシャル・タイムズに EU は IASB が公開したばかりの金融商品会計基準 (IFRS9 号のうち、分類と測定に関する部分) の採用を延期するという記事が出ていたため、沈痛な雰囲気が始まった。もともと、当該基準は欧州の金融機関の今年末決算のために大急ぎで開発したもので、多くの投資家委員は EU の決定を意外感を持って受け止めていた。トゥイーディー議長も EU の対応については、「extremely irritating(メチャむかつく?)だが、我々に出来ることは何もない」と述べていた。投資家委員の中には皆で直ぐ EU にレターを出そうという人もいて、トラスティの一人が「トラスティーズもいずれレターは出すと思うが、拙速(knee-jerk action)は避けるべきだ」と戒める一幕もあった。ただし、トゥイーディー議長は SAC の前日に開かれたセミナーの中で、EU の当該基準採用可能性は 50:50 としており、ある程度予想していた節もある。また、採用遅延の理由も EU 内部の人事異動が主因で一時的なもの、との見方もあり、IASB の反応は総じて言えば極めて落ち着いたものだった。

この他には、投資家の意見をどう汲み上げるかが議論の中心。IASB による意見聴取が北

米、欧州中心でアジアでの意見組み上げが少ないのではという指摘があったので、次のコメントをした：投資家の意見には地域的なバイアスがある。日本でアンケート調査を行うと、北米と比べて保守的な意見が出ることが多い。この一因は、北米の投資家に比較すると日本の投資家は経営者を好意的に見ていることがあるのではないかと思う。直説法キャッシュフロー表についての CFA 協会のアンケート調査では、地域的バイアスは無かったというが、日本在住の CFA の約半数は北米本社からの駐在員という問題もある。

IASB が主体となって、全世界で統一アンケート調査をしようというアイデアも出たので、日本で行う場合は英語では回答可能者が限られるので、邦訳できるようにして欲しいと述べた。

(9) 2011 年後の議事日程(続き)

前日の小グループ討議の報告と議論。戦略的オプションの中では「(d)開発は一休みして IFRS 導入後の評価をする」がコンセンサスであった。具体的なプロジェクトとして何を取り上げるかは、次回以降の継続討議とし、来年中に SAC としての推奨議事日程を IASB に上げることが目標にすることにした。

議論の過程で金融庁の園田氏から次のコメントがあった：IASB が関係各方面と協調し、対話を重ねることは非常に重要。ただし、特定の関係者からの影響を排除することが、基準設定者としての独立性確保のために肝要である。

最後にトゥイーディー議長が次の発言をして、笑いを誘った：要するに、皆さんは我々の代で全ての仕事を片付け、我々の後任者はビーチで小説を読みながらマティーニを飲んでいればいい、と言うのですね。私は反対です。

(10) 定款の見直し

IASCF が行っている定款の見直し(第 2 フェーズ)がテーマ。出席したトラスティーから次の 3 点について意見を求められた。①IASB の議事日程をより公的なプロセスで決めるべきか、②「原則主義の基準開発」を定款に明記すべきか、③緊急時のデュープロセス短縮を認めるべきか(現状の 30 日間を短縮して良いか)。

①については、3 年に一度程度、公的な議事日程設定があってもよいが、その中でも SAC が主体的な役割を果たしたいという意見が多かった。

②については、重要で基準設定の独立性確保に資するので賛成という意見と、定款に入れるべき問題点とは思わないので反対という意見に分かれた。

③については、30 日の最短期間を短縮すべきではないという意見が多かった。金融庁の園田氏は次の意見を述べた：非英語国の場合、翻訳を考えると 30 日間でも短すぎるくらいだ。例外的事態の到来は、それを避けるように工夫すべきであり、どのような場合でも 30 日を短縮するのは反対である。

報告者は次のコメントをした：園田氏の言うとおおり、30 日でも現実的には難しい。しか

し、昨年生じたことは、また来年生じる可能性もあるので、例外的なデュープロセス短縮を頭ごなしに反対するわけではない。但し、現在の短縮案には欠陥があると思う。すなわち、「デュープロセス期間を短縮することは出来るが、全く無くすことは出来ない」という案だが、これでは1日のデュープロセス期間が可能になる。これでは、意味がないので、「緊急時でも2週間」とするよう反対提案したい。

定款上のその他の問題に関し、次の意見を述べた：SACの役割についてコメントしたい。IASCF内の組織の中で、SACは2つの大きな特徴を持つ。第1は、人数が多いこと。トラスティーズは22名、IASBとIFRICは現在14名。SACは現在約48名。第2の特徴は役割がはっきりしないこと。トラスティーズはお金を集め、人事を行う、IASBはIFRSを書く、IFRICは解釈指針を書くと、役割がはっきりしている。これに対し、定款が規定するSACの役割は助言するとか、意見を伝えるとかで、あいまいで具体的なアウトプットの言及が無い。SACについては、この2つの特徴、人数が多く役割があいまいであるという点を、短所ではなく長所に変える必要がある。2つの特徴を長所にするためには、SACはIASBの動向を出身母体その他の関係者に伝えることを目的に加えるべきである。多数の委員がIASBの検討状況を伝えることで、IFRSの理解、IASBに対する支援が向上することが期待できる。IASBに対する批判の多くはIASBの活動についての理解不足によると思う。既に今年のSAC改編にともない、各委員は自分の意見ではなく、出身母体の意見を述べるように言われている。このために各委員はIASBの検討状況を出身母体に伝え、意見を収集している。「提案」はSACに関する規定は変更しないとしているが、SACの上記活動を追認するためにも、定款案第45条に(d)として「出身母体および関係者にIASBの活動状況を伝える」といった文言を追加することを提案する。

(11) 運営問題

SACの運営問題について。事務局から、導入が決まったSharePointというソフトについての説明が中心。

(12) 年金会計(教育セッション)

スタッフから年金会計開発動向の説明。

以 上

参考資料

SAAJ Opinions Regarding Post-June 2011 Priorities

Introduction

The Corporate Accounting Committee (CAC) is a standing committee of the Securities Analysts Association of Japan (SAAJ). The CAC, composed of 14 members including 10 investment practitioners, 2 academicians, and 2 public accountants, is active in analyzing and giving opinions on accounting issues. The opinions of CAC members were sought regarding post-2011 priorities. To this end, members were asked to rate the options/projects mentioned in paragraphs 11 and 14 of SAC Agenda Paper 1. All members responded to the survey and the major findings were as follows:

Strategic Direction

<i>Options</i>	<i>Number of votes</i>	<i>Total points</i>	<i>Average points</i>
<i>(a) Focus on several large projects</i>	9	33	3.7
<i>(b) Repairs and maintenance</i>	6	20.5	3.4
<i>(c) Replace IAS with IFRS</i>	2	5	2.5
<i>(d) Pause and review</i>	8	27.5	3.4

Notes: 1. "Number of votes" shows how many members supported the option. The maximum, theoretically, is 14.

2. Plural answers permitted. The highest choice received 4 points and the lowest 1. If a respondent replied, for example, "(a) and (b) are equally important and (c) and (d) are not important", (a) and (b) were awarded 3.5 points each, resulting in fractional "Total points" for some options.

3. "Average points" = "Total points" divided by "Number of votes".

- Option (a) received the greatest support both in terms of number of votes and average points, followed by (d) by a narrow margin.
- Four respondents chose both (a) and (d) which seems contradictory, but their thinking is "basically this is the time we should have some rest and review what has been done, though a few important issues should be tackled simultaneously".

Projects

<i>Projects</i>	<i>Number of votes</i>	<i>Total points</i>	<i>Average points</i>
<i>(a) Extractive industries</i>	3	13.5	4.5
<i>(b) Disclosure framework</i>	7	38.5	5.5
<i>(c) Foreign currency translation</i>	6	30	5.0
<i>(d) Impairment: non-financial assets</i>	3	10.5	3.5
<i>(e) Intangible assets</i>	5	22	4.4
<i>(f) Net income</i>	9	44.5	4.9

Note: Project (f) is not in the SAC agenda paper. It was added because some members pointed out that it would be a big issue left over from the financial statement presentation project.

- “Net income” (f), added by SAAJ as a possible project, received the most points in terms of “Number of votes”, reflecting deep interest in the subject in Japan.
- “Disclosure framework” (b) received the most “Average points”. Respondents commented that a solid framework was required for this controversial issue.
- Respondents who selected “Extractive industries” said this was an important issue internationally although few Japanese companies were major players.